

地域公共交通計画の事業実施状況と評価について

令和6年6月19日(水)

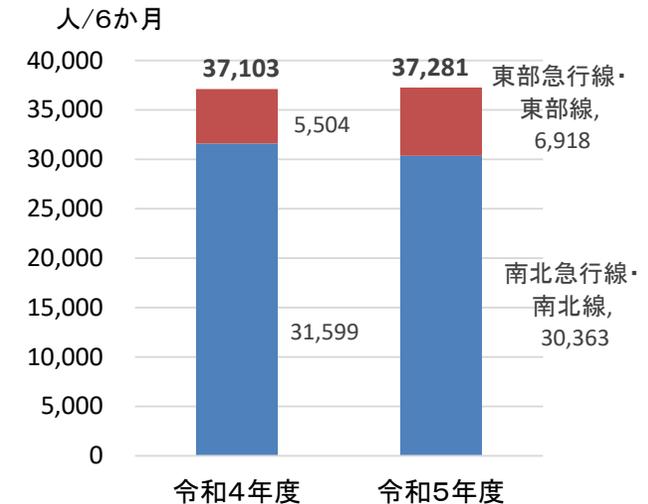
三重県東員町 政策課

主な事業実施状況と評価①

【基本目標1-3】持続可能な仕組みの構築／【基本目標3-1】オレンジバスの再編

- ・オレンジバスの運賃収入は令和4年度と比較し453,644円増加し、収支率が0.5%上昇し、15.1%となり目標達成。
- ・オレンジバスの乗車人員は令和2年度と比較し7,129人減少。令和4年度から増加傾向となっており、回復傾向にある。
- ・令和5年10月からルートダイヤの改定を行ったが乗り控えがなく、全体では微増しており今後の効果が期待できる。

	運賃収入額	収支率	乗車人員
R2	7,246,926円	9.9%	83,844人
R3	11,107,311円	14.3%	80,092人
R4	11,330,101円	14.6%	74,317人
R5	11,783,745円	15.1%	76,715人



評価・次年度に向けた課題や取り組み

- ・利便増進実施計画の策定や利用者にとって利便性の高いルートへ見直した取り組みを評価。次年度については、新ルート・ダイヤでの運行状況を注視しつつ、影響や効果を検証し、より住民目線による対策を検討する。

主な事業実施状況と評価②

【基本目標2-1】交通結節点の利便性向上

- ・令和4年4月1日から運行を開始した東員町陸上競技場をホームグラウンドに活動するサッカーチームのラッピングの車両を引き続き運行する。ホームゲームの開始時刻に合わせラッピング車両を充当するなど、サッカー観戦者が公共交通を利用するよう促し、観光事業と連携した公共交通の利用促進施策を実施。
- ・令和5年10月29日にイオンモール東員で開催されたお仕事体験イベントにおける鉄道ブースの出展や、令和6年3月20日の東員町公共交通ワークショップにおいて、北勢線やオレンジバスなどの公共交通を利用したおでかけについて考えるワークショップを開催するなど、地域住民に対して公共交通の理解や啓発を促す、利用促進施策を実施。

東員駅の乗車人員	
R2	139,089人
R3	140,466人
R4	155,584人
R5	168,338人



評価・次年度に向けた課題や取り組み

- ・町内のイベントやワークショップにおける啓発活動の取り組みなどにより、東員駅の利用者が昨年度より増加したことが、利便促進につながっていることと評価。次年度については、鉄道、路線バスとの接続を調整した新ルート・ダイヤの検証した結果をもとに、乗継の利便性向上を図る。

主な事業実施状況と評価③

【基本目標4-1】外出支援

・昨年度よりも対象が増えたことによりパスを持つ人が増加したことや、おでかけ元気パス事業の開始から3年が経過し、制度が定着してきたこと及びオレンジバスの利便性が向上したことで、利用者が増えたと考察。(75歳以上)令和5年3月=3,835人⇒令和6年3月=4,185人(差350人増)

	おでかけ元気パスの利用者数
R3	16,656人
R4	17,496人
R5	20,165人



評価・次年度に向けた課題や取り組み

・次年度も引き続き、高齢者が公共交通を利用して移動ができる環境づくりのため、おでかけ元気パス事業を実施する。

主な事業実施状況と評価④

【基本目標4-2】公共交通の魅力発信

- ・町内で開催されたイベントに公共交通ブースを出展し、オレンジバス、北勢線の利用促進活動を実施。(10/15わくわくフェスタ)
- ・オレンジバス車内に設置したデジタルサイネージで、わくわくフェスタで募集したオレンジバスぬりえのデジタル展示を実施。(計25作品を展示)
- ・公共交通の相互利用の促進を目的に、北勢線のサンタ電車のイベント時に合わせオレンジバスの無料乗車券を発行し、配布。(利用枚数:南北線54枚、東部線13枚)



評価・次年度に向けた課題や取り組み

- ・オレンジバスの利用促進活動や、北勢線の利用促進事業(サンタ電車)と連携したオレンジバスの無料乗車券の取り組みを実施できたことを評価。オレンジバス車内に設置したデジタルサイネージについて、サイネージの設置料として運賃収入以外の収益が増加するとともに、行政情報の放送やぬりえのデジタル展示など利用者への情報提供や利用者の増加に資する取り組みに積極的に活用していることを評価。次年度は、さらに広域的な取り組みになることを期待する。